

全国大会発表特別賞

第55回全国大会 [福岡] '24 発表特別賞受賞者挨拶
Greeting from the Winners of Special Reward

大会発表特別賞受賞にあたり

金子 咲
(東邦大学附属東邦中学校)

この度は日本色彩学会全国大会発表特別賞に選出していただき、誠にありがとうございます。私の研究「色覚多様性とメディアユニバーサルデザインの学習と理解 (ロボットづくりの現場にて)」にご指導・助言をくださった小粥将直様、富山健様、実験に協力していただいたSAKURA Tempestaメンバー、学校の先生や友達、そして本賞に選考してくださった選考委員会の皆様へ心より感謝申し上げます。

今回の発表では、主に以下の四つの活動を通じて三つの目的を追求しました。一つ目は「メディアユニバーサルデザインの学習」です。色彩学についての知識が乏しかった私ですが、研究を進める中で多くの応用例に気づきました。二つ目は「見分けづらさアンケート」の実施です。背景に白・黒・灰色を使用し、色差・明度差・彩度差を比較しました。驚くことに、背景色として最も使われる白が実は最も不適切であることが明らかになりました。また、高齢者と若者の色相差を比較した際、高齢者のデータに特出した傾向が見られ、今後の研究課題としたと思います。三つ目は、「色覚特性疑似体験」です。Another Visionというアプリを使った色覚特性の疑似体験です。このアプリを通じて、普段とは異なる色の見え方を体験し、色の識別が難しいことを実感しました。四つ目は「探求学習」です。探求学習として、日々のロボット製作環境の調査を行いました。見分けやすい部品もありますが、配線や抵抗など細かいものは識別が難しいことが分かりました。今回わかった困難な点はどんどん直していき、全員にとって活動しやすい場所を作っていきたいと思えます。

初めての学会参加に際し、高校生を対象とした場で中学生の私が参加してよいか不安でしたが、今回の受賞により自信を持つことができました。今後も研究に精進し、活動を続けてまいります。改めて、皆様へ感謝申し上げます。



大会発表特別賞受賞にあたり

牧野 莉子
(麗澤高等学校)

この度は日本色彩学会全国大会発表特別賞にご選出いただき、大変光栄に存じます。今回、発表させていただいた「色覚多様性とメディアユニバーサルデザインの学習と理解 (ロボットづくりの現場にて)」の研究にあたり、日頃より活動を支えてくださる小粥将直さん、富山健さん、実験にご協力いただいた方々、本賞に選出してくださった選考委員の方々に、心より感謝申し上げます。

本研究では一つ目に座学とワークショップを通して配慮の必要性を検討すること、二つ目に年齢と色覚特性による見分けづらさの調査を行うこと、三つ目にロボットづくりの現場にて配慮の方法を学習することを目的としました。まず、座学でメディアユニバーサルデザインを学び、筆談なしで名前を相手に伝えるワークショップを行いました。次に、若い人、高齢者を対象に、人の見分けづらさの閾値を調べるためのアンケートを行いました。この調査には、それぞれ背景が黒、グレー、白のカードを用いており、被験者に、カード上の四隅に描かれている2色の四角が暗所と明所において見分けがつかないかを判別してもらいました。最後に、色覚特性についての理解を深めるために、見え方を疑似体験できるアプリを用いて、ロボットの配線とチームTシャツの見え方の調査を行いました。

これらより、一つ目に色覚障害者とのコミュニケーションや情報共有のためには配慮が必要であること、二つ目に人が最も見分けづらい背景の色は白であり、見えづらさの閾値は若者と高齢者とで顕著に差が表れること、三つ目にロボットづくりの現場において配色やデザインに配慮が必要であることが分かりました。

高校生で学会に参加させていただいたことで、自分の未熟さを実感すると同時に、研究発表をされていた方々に対し憧れの気持ちを抱き、自分自身も早く大学で研究をしたいと強く思いました。今回の受賞を励みにして、今後もより一層精進して参りたいと思えます。



大会発表特別賞受賞にあたり

小粥 敦博
(木更津工業高等専門学校)

この度は日本色彩学会全国大会発表奨励賞にご選出いただき、大変光栄に存じております。今回発表させていただいた「色覚多様性とユニバーサルデザインの学習と理解 (ロボットづくりの現場にて)」の発表にあたり、日頃よりご指導いただいている富山健先生、小粥将直先生、実験にご協力いただいた方々、本賞にご選考下さった選考委員の方々に、心より感謝申し上げます。

今回発表に至った経緯ですが、我々が所属しています団体 (ロボットづくりを主にやっている) にて小粥将直先生からユニバーサルデザインについてご説明いただく機会があり、団体メンバーの中に色覚異常を持つ方がいらっしゃいました。健常者と違う色の見え方で識別や判断に支障が出ることも解説していただき、学習の機会を得ることができました。この学習から我々の団体で気をつけるべき点や改善を私達で探し、改善することを目標としました。最初に健常者、色覚障がい者の関係なく個人差のある色の捉え方の違いを理解するため、アンケートを行いました。最初に自身が所属する団体の方々に明度差、色相差、彩度差を変えたカードを見分けていただく内容にいたしました。また得たデータだけでなく、白内障や高齢者、色覚障がい者の方々のデータを集め、色の見え方の違いについてまとめることができました。次に身近にある改善点を洗い出し、改善案を考えました。日頃何となく見ていましたが、電気抵抗など健常者から見たら区別ができる配色でも色覚障がい者には似ている配色になっているものがありました。このように健常者と色覚障がい者の間には見えている景色のギャップが存在することを今回の学習を通して学ぶことができました。今回の受賞を励みにして、今後もより一層精進して学習に取り組んで参りたいと思えます。